

臨床研究に関する情報公開

渋川医療センターでは、下記の臨床研究の情報を公開しております。

研究の計画・方法についてお知りになりたい場合、研究への情報利用についてご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、各研究の研究責任者または、以下の「問い合わせ先」へご連絡ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名]

てんかん患者に与える MOdular Service package EpilepSy (MOSES) の効果

[研究責任者]

岩丸 樹

[研究の背景]

てんかんは、新生児から高齢者までいずれの年齢層でも発症する疾患であり、現在日本では 60 万～100 万人と言われている。てんかんのコントロールには、規則的な生活や正しい内服といった日々のセルフコントロールが重要である。しかし、当院でも不規則な生活や急薬により救急搬送となり入院を繰り返す患者がいる。これは、疾患の理解が不十分であることにより治療方法や発作時の対処方法、日常生活上の注意点が理解できていない現状にある。また、患者が自分でてんかんに関する情報を得ようとした時、書籍やインターネット等により取得しやすくなった一方、誤った情報や知識に惑わされてしまうことが懸念される。

てんかん患者が自身の疾患について学ぶことできる場は限られている。当院は 2018 年よりてんかん診療を行い、昨年よりてんかん診療支援拠点病院としての役割を担うこととなった。その役割の 1 つとしてセルフコントロール促進のため患者指導を導入し、学習の場を提供する役割を担うことも重要である。MOSES はてんかん患者が、同じ病気をもつ患者やトレーナーと意見交換をしながら、病気についての知識、病気と向き合う方法について学ぶプログラムである。参加することで、病気について質の高い情報や病気とうまく向き合うための方法、発作頻度や薬の副作用による悩みが減少することが先行研究¹⁾で証明されている。MOSES の短期的効果、6 か月後の効果についてはすでに報告されている。しかし、当院のような総合病院で、てんかん診療経験年数の浅い場合でも同様の結果を患者へ及ぼすことが可能なかは明らかになっていない。その為データを活用し、分析を行うことでより質の高い患者指導へ結び付ける必要がある。

[研究の目的]

本研究は、当院で MOSES 受講する患者の受講前後、6 か月後での心理的影響、てんかんに対する知識、てんかんへの適応能力を明らかにすることを目的とする。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

当院で開催する MOSES を受講する患者

●研究期間

倫理審査許可日～2026 年 3 月

●利用するデータ

半構成的質問用紙

PESOS

てんかんにおける生活の質

てんかんの知識スケール

●情報の管理

研究責任者は、研究等の実施に係る文書を 5 東病棟の鍵のかかるロッカーに保管する。保管期間は、5 年とする。保管期間終了後は、紙媒体に関してはシュレッダーで裁断し破棄する。他の媒体も適切は方法で破棄する。

[研究組織]

独立行政法人国立病院機構 渋川医療センター

[個人情報の取扱い]

本研究に関する研究計画書は、研究対象者の個人情報について適応される法令、条例を厳守する。また、関係者は研究対象者の個人情報及びプライバシー保護に最大限注意を払い、本研究を行う上で知り得た個人情報を適切な理由なく漏らしてはならない。関係者がその職を辞した後も同様とする。研究責任者が本研究で得られた情報を公開する際には、研究対象者が特定できないよう十分配慮する。

[利益相反]

本研究に関連して開示すべき利益相反関係にある企業等はない。

【問い合わせ・苦情等の相談窓口(連絡先)】
独立行政法人国立病院機構渋川医療センター

〒377-0280
群馬県渋川市白井 383
電話 0279-23-1010(代表)
FAX 0279-23-1011

部署:5 階東病棟
職名: 看護師
氏名: 岩丸 樹